

和歌山病院 ニュース

第26号

2010年1月発行

職員一同は、患者さまの権利と立場を尊重し、地域と密着した

【安心と信頼をいただける病院】

をめざします。



発行元

独立行政法人 国立病院機構 和歌山病院

〒644-0044 和歌山県日高郡美浜町和田1138
Tel 0738-22-3256 Fax 0738-23-3104
ホームページ <http://www.wakayama-hosp.jp/>



before(改修前)



after(ひさし取付後)

病院玄関前に大型のひさしを取り付け、雨天御来院時の雨よけとしてご好評頂いております。

目次

- ◆ 院長より新年のごあいさつ 2
- ◆ 平成21年度健康フェアを開催しました 2
- ◆ 禁煙支援講演会を開催しました 3
- ◆ 職場紹介（療育指導室） 3
- ◆ 外来診療担当表 4
- ◆ 病診連携医院のご紹介（第12回） 4



新年のごあいさつ



院長 楠山 良雄

新年明けましておめでとうございます。

昨年は各種の医療機関や地域住民の皆様から、当院の運営について多大な御支援・御協力をいただき、本当に有難うございました。心より御礼申し上げます。

昨年は新型インフルエンザが猛威を奮い、全国的に多数の方が罹患し、また重症化しました。幸い御坊医療圏においては、入院を要する重症者の数はこれまでのところ限定的で、日常診療が妨げられる様な事態は起こっていません。まだ予断を許さない状況ですが、今後とも十分な受入れ体制を維持していきたいと思えます。

当院は国立療養所の時代から数えて63年が経ち、昨年より重症心身障害児（者）病棟を中心に病棟建て替えの計画を進めてきました。昨年度政権交代があり、障害者施設への国の援助のあり方もまだ不透明な部分がありますが、当初の予定通り平成26年を目標に着実に準備を進めていくつもりです。

病院経営については、今後地域連携の成否が鍵となることは間違いないでしょう。当院は昨年も高い紹介率(68.4%)と逆紹介率(59.5%)を維持することができました。また介護老人保健施設や特別養護老人ホーム、訪問看護ステーションなどとも連携を深め、安心して入退院していただける様努力してきました。今後は2次医療圏の枠を越えて、地域連携の和を拡げていきたいと思えます。

昨年来の不況の嵐の中、医師・看護師不足も解消されないまま、病院経営にとって厳しい時代はまだしばらく続くと思われます。

当院は地域住民の健康を守り地域医療の一翼を担い続けるため、職員一丸となって頑張っていきたいと思えます。



平成21年度健康フェアを開催して

看護広報委員長 山本友子

11月10日(火)9:00~15:00、御坊市のオークワロマンシティにて健康フェアを開催しました。広報委員会の構成委員である医師・看護師・薬剤師・栄養士・臨床検査技師・放射線技師・事務部が企画を立案し、当日は273名の来場者がありました。

医師によるいびき(睡眠時無呼吸症候群)や禁煙、閉塞性動脈硬化症の早期発見についての相談、薬剤師による薬剤相談、栄養士による栄養相談、検査技師による肺機能検査と超音波検査、放射線技師による乳がん検診の相談、看護師による健康相談・身長体重血圧の身体測定・骨密度測定・体脂肪測定・血液中の酸素量測定とAED体験を行いました。

一番人通りの多いイベントコーナーをお借りして案内パンフレットを配布し、来場者には看護師による身体測定を行い、健康に関する悩みを伺いながら栄養相談など各種相談コーナーに案内しました。学生や子供連れの若いカップルから高齢者の方まで幅広い年齢層の方が来場され、主に骨密度や肺機能検査に興味を持

って頂け、治療中の薬相談以外に健康補助食品の質問もありました。「夫が禁煙しないのでやめさせる方法はないのでしょうか」「乳がんの早期発見の自己チェックの方法を教えてください」「歩くときに足が痛くてしびれるがどんな病気が考えられるのでしょうか」「無料で体の測定をして貰って身体の相談に乗ってもらえることはないのでは有り難い」などの声が聞かれました。

今後も地域住民の方々とふれあいを通して健康に関する関心を持って頂けるように活動していきたいと思えます。



禁煙支援講演会を開催しました。

禁煙支援委員会

11月5日、講師に湯浅保健所長、森岡聖次先生をお迎えし院外講演を開催しました。

「たばこ規制をめぐる動向—FCTC発効5年を経過して」というテーマで講演していただき、63名のご参加をいただきました。

喫煙の歴史から、世界的な禁煙についての動向、日本の現状、さらに和歌山県の現状について興味深く聞かせていただき、今後の禁煙支援活動に生かしていきたいと思います。

現代、さまざまな場面で禁煙が叫ばれるようになってきています。禁煙について知りたい方、やってみたいと思われる方はお気軽に、当院禁煙外来を受診してみてください。



和歌山病院禁煙外来：
第2・4週木曜日午後(要予約)
ご予約・問い合わせは
Tel.0738-22-3256まで

職 場 紹 介

～療育指導室～

療育指導室は、1名の療育指導室長と3名の児童指導員、10名の保育士で構成されています。

児童指導員、保育士は、入院されている重症心身障害児(者)「以下 重症児(者)と省略」に対し、ムーブメント教育、音楽療法、スヌーズレン、アタッチメントセラピーの理論を基に療育活動を提供し、重症児(者)の健全育成と生活の質の向上に努めています。また、家族の方には悩み事や年金、各種福祉制度の相談に応じる他、入退院及び退院後の家族支援を児童相談所等の関係福祉機関を通じて連携・調整を行うなど、福祉の支援を行っています。

地域の重症児(者)への在宅支援として、在宅支援訪問療育等指導事業の委託を受け、海南・海草圏域、有田圏域、日高圏域の重症児(者)の各家庭を訪問し、巡回相談(福祉・生活相談・療育活動)を行っています。

さらに、平成18年からは、B型通園事業「ふれあい」が開園され、御坊、日高圏域内から通園されてきた利用者へ、重症児療育を提供すると共に発達支援と家族への療育相談を行っています。

今後も、入院されている患者様の療育の質の向上はもちろんのこと、関係福祉機関とは、これまで以上に連携を図り在宅支援にも一層に励み、重症児の医療福祉の向上に努めたいと思います。



重症心身障害児(者)病棟にてクリスマス会を開催しました！(H21.12.9)



外来診療担当表

平成22年2月1日現在

		月	火	水	木	金
外科 乳腺外来	2 診	栗 山	太 田	(手術日)	太 田	有 本
		—	太 田	—	太 田	—
循環器科	3 診	楠 山	石 井	担当医	楠 山	水 越
	5 診	豊 田	山 野	—	山 野	豊 田
	6 診	石 井	—	—	—	—
神経内科	6 診	—	—	河本 (隔週) 三輪 (隔週)	—	河 本
呼吸器センター	初 診	14 診	柳 本	川邊(和)	市 川	小 野
		15 診	—	—	—	赤 松
	予約診	16 診	駿 田	小 野	柳 本	川邊(和)
	専門外来(午後)		—	睡眠外来 駿田(再診)	禁煙外来・肺がん検診 乾(※注)	睡眠外来 駿田(初診)
			—	COPD外来 担当医	—	—

※注 木曜日の乾Drの外来につきましては第2・4週のみとなっております。

放射線科	—	診断医 (予約制)	—	診断医 (予約制)	放射線治療 (予約制)
------	---	--------------	---	--------------	----------------

※放射線治療医につきましては月ごとに変わるため、電話にてお尋ねください。

検査室	超音波室	—	—	—	心エコー	心エコー
	機能検査室	—	心機能検査	—	心機能検査	心機能検査
	内視鏡	気管支	気管支	—	気管支	気管支

- 一. 受付時間 8時30分から11時30分
- 二. 診療時間 8時30分から17時00分
急患については、この限りではありません。
- 三. 再診については原則、予約制にしております。

電話 (0738) 22-3256【代表】

※夜間・休日は (0738) 23-1506

<http://www.wakayama-hosp.jp/>

院長／楠山 良雄

副院長／駿田 直俊(和歌山県立医科大学臨床准教授)

診療部長(内科系)／豊田 康誠

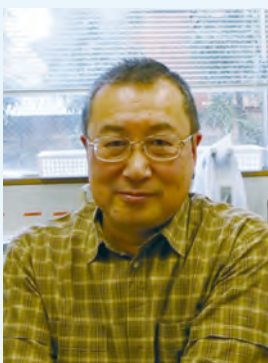
診療部長(外科系)／有本 潤司

病診連携医院のご紹介(第12回)

～山羽胃腸科内科 山羽 義貴先生～

- 診療科目 胃腸内科・内視鏡内科・内科
・糖尿病内科・老年内科
- 所在地 〒644-0002 御坊市園652-2
- 電 話 0738 (22) 1968

診療時間	月	火	水	木	金	土	日
午前 (8:00～12:00)	○	○	○	○	○	○	/
午後 (14:00～18:00)	○	○	○	/	○	/	/



診療にあたってのポリシー—地域住民のために、患者さんを一生懸命見る、っていうのがいちばんのモットーかな、と思います。心がけとしては患者さんの話になるべく時間をとってよく聞くこと、そのうえでやさしく接していくということです。

和歌山病院の印象は一すごくお世話になっています。開放型病床の患者さんの訪問にも、近いので気軽に行けますし。和歌山県立医大などとも密接に連携してくれたり、とても助かっています。



地域医療連携室より—夜や休日は音楽を聴いてリラックスされるという山羽先生。今回の取材で、おすすめのアーティストも教えていただきました。フレンドリーにお話しいただいて、日常の診療で患者さんに向けられている姿が目につかぶようでした。